J-PARCチャームバリオン分光実験用の 連続読み出しシステムの実装

白鳥 昂太郎 for the J-PARC E50 collaboration

大阪大学核物理研究センター (RCNP)

計測システム研究会2023 @ RCNP ~計測システム開発の現状と今後の展開~

2023年11月21日

Introduction

J-PARCチャームバリオン分光実験 検出器セットアップとDAQ

J-PARC & ハドロン実験施設



世界最高水準の陽子ビーム強度

チャームバリオン分光実験: J-PARC E50

 ハドロンの有効自由度の解明:ダイクォーク相関 ⇒ チャームバリオンの励起状態の研究



*実験:生成率と崩壊幅の測定

- ・ ミッシングマス法: π + p \rightarrow Y_c^{*+} + D^{*-} $\rightarrow \mathrm{K}^{+}\,\pi^{-}\,\pi^{-}$
 - 20 GeV/c π^- beam: 30 MHz

```
*汎用実験セットアップの建設を推進
```



高運動量ビームライン二次粒子ビーム実験の概要

*E50 ⇒トリガーレス連続読み出しDAQシステムによるデータ取得

- ・ 複雑なハードウェアトリガーの構築 ⇒ソフトウェアによるデータ選別 (フィルタリング)
- ・E50実験セットアップ: J-PARC高運動量ビームラインにおける汎用実験セットアップ
 - ・トリガーレスDAQによる2-20 GeV/cの高運動量ハドロンビームの効率的な利用

実験	ビーム粒子	運動量 [GeV/c]	強度 [MHz]
チャームバリオン分光実験 (E50)	π^-	20	30
Non-strangeダイバリオン探索実験 (E79)	proton	2.85-4.00	>1
Ξバリオン分光実験 (E97)	K-	5-8	> 0.5
Ωバリオン分光実験 (P85)	K -	7–10	> 0.5
φ中間子生成実験 (P95)	π^-	1.8–2.4	> 0.5
Exclusive Drell-Yan実験 (LOI)	π^-	15	30
Λ-p散乱実験 (LOI)	π^-	8.5	30
Double-K中間子原子核生成実験 (関連LOI)	proton	8	30
クォークカウンティングルールによるΛ(1405)の研究	π^-	5–10	> 0.5

E50実験セットアップ



*TDCベースFEE, MPPCの利用など要素技術を共通化



E50実験セットアップ

- * **全**20,000–25,000 ch (25 GB/spill ⇒ 12.5 GB/sec.=100 Gbps)
 - Streaming DAQ FEE: TDC(+TOT)情報のみ
 - + タイミング同期システム (MIKUMARI)
- MPPC検出器: 15,000-20,000 ch
 - ファイバー飛跡検出器
 - RICH, Beam-RICH, 閾値型AC

\Rightarrow **CIRASAME** (ASIC: CITIROC)

- 128 ch/board
- Low-resolution TDC ($\Delta T_{LSB} \sim 1 \text{ ns}$)
- ・ タイミング検出器: ~1,000 ch
 - T0, RPC, TOF: $\mathcal{T} \sim \mathcal{T}/PMT + Discriminator$

⇒ AMANEQ board (HR-TDC mezzanine)

- 64 ch/board
- High-resolution TDC ($\Delta T_{LSB} \sim 20 \text{ ps}$)
- ・ ドリフトチェンバー: ~4,000 ch
- ⇒ ASAGI ASD card + AMANEQ board (DC mezzanine)
 - 128 ch/board
 - Low-resolution TDC ($\Delta T_{LSB} \sim 1 \text{ ns}$)

*TDCベースFEE, MPPCの利用など要素技術を共通化





E50テストベンチ

検出器とDAQモジュールの構築 DAQシステムの実装 SPADI Alliance



E50テストベンチ(E50TB) @ J-PARC K1.8BR

- ・ハドロンビームを利用したStreaming DAQとE50検出器の評価試験の実施
 - ・ビーム強度 (全荷電粒子): ~1 M/spill (2.0秒取り出し, 5.2秒加速サイクル)
 - K⁻ ~ 200 k/spill, π^- ~ 800 k/spill
- Streaming DAQ &検出器テスト
 - ・連続読み出しDAQシステム
 - ・FEEのアップデート
 - ・フィルタリング機能の実装
 - ・フィルタリング評価データ取得
 - ・E50検出器の性能評価
 - ・ ドリフトチェンバー,タイミング検出器
- ・ビームタイム期間: 6/19-21 (~3日)
 - ・ビーム利用は実際には数時間
 - ・トラブルで実験がかなり限られた...



*皆さまのご協力ありがとうございました Alliance

E50TB: セットアップ概略図



- ・飛跡検出器: SFT(ファイバー検出器), KLDC&BDC(ドリフトチェンバー)
- ・タイミング検出器: UTOF, STOF, LTOF, DTOF, RPC, T0





- ・ ストリーミングTDC (AMANEQモジュールのみ)
 - HR-TDC: HUL mezzanine HR-TDC×2台 (64 ch), 10Gbsp SiTCP
 - LR-TDC: HUL mezzanine DCRv2×2台 (128 ch), 1Gbsp SiTCP
- ・ PC (システムワークスPOWER MASTER Vision S5725: AMD EPYC 74F3 24 core, 3.2 GHz, Mem. 64GB)
- HUB (FS S5860-20SQ, 10Gbps port×24, 25Gbps×4, 40Gbps×2)

15 DAQ構成 ***** DC: ASD(GNA-200) \Rightarrow LR-TDC ***** SFT: NIM-EASIROC \Rightarrow LR-TDC Data *タイミング検出器: ディスクリ⇒ HR-TDC **MIKUMARI** AMANEQ×8 LR-TDC 上流部 **MIKUMARI Primary BDC 汤**吾 HUB **DTOF LTOF** Server PC **MRPC** 下流部DAQセッ AMANEQ×1 HR-TDC 下流部DAQセット+上流部DAQセットの2系統の構成 ・ 3 VME crates + 1 NIM-BINで構成 ・MIKUMARI FanOutによる20台のAMANEQモジュールの同期

DAQ構成 ***** DC: ASD(GNA-200) \Rightarrow LR-TDC ***** SFT: NIM-EASIROC \Rightarrow LR-TDC Data *タイミング検出器: ディスクリ⇒ HR-TDC **MIKUMARI** 上流部 AMANEQ×8 LR-TDC **MIKUMARI Primary BDC** HUB **DTOF LTOF Server PC** 上流部DAQセット **MRPC** AMANEQ×1 HR-TDC 下流部DAQセット+上流部DAQセットの2系統の構成

- ・ 3 VME crates + 1 NIM-BINで構成
- ・MIKUMARI FanOutによる20台のAMANEQモジュールの同期

16



- 下流部DAQセット+上流部DAQセットの2系統の構成
 - ・ 3 VME crates + 1 NIM-BINで構成
- ・MIKUMARI FanOutによる20台のAMANEQモジュールの同期







- ・検出器
 - BDC: 900 ch + KLDC: 512 ch
 - SFT: 384 ch
 - TOF, MRPC, タイミング検出器: 62 ch
- DAQ: AMANEQ × 20 (Streaming TDC × 17 + MIKUMARI × 3)
 - LR-TDC AMANEQ $\times 15$
 - HR-TDC AMANEQ $\times 2$
 - MIKUMARI Primary×1 + Fanout×2
- ・データ取得用PCサーバー×1
- ⇒標準的な原子核実験規模(コンパクトなサイズで達成)

NestDAQシステム構成



- フィルタリング無し: Sampler → STFB → FileSink×20プロセス
- フィルタリング有り: UTOF × DTOF coincidence (20 ns time window)

19

UI

データ取得コンディション

- ・Time-Over-Threshold (TOT)フィルター for DC
 - ・AMANEQによるハードウェアフィルタ
 - ⇒ TOT > 50 nsのみ取得
 - ・ DCノイズやクロストーク事象の除去
- Free streaming data: フィルタリング無し
 - ・HDDのIOキャッシュが効く間のみ取得可能
 - ・ Several Gbpsのデータフロー
 - ~10 spill程度のデータは取得
- ・Beam TOFコインシデンフィルター
 - ・ UTOF × DTOFコインシデン: 20 ns time window
 - UTOF: 2 segments w/ L&R readout \Rightarrow L&R coincidence and Segment OR
 - DTOF: 3 segments w/ L&R readout \Rightarrow L&R coincidence and Segment OR
 - ⇒ UTOF × DTOF コインシデンスがあるtime frameを記録

*Beam TOFコインシデンフィルターで~600 spill(~1 時間)のデータを安定状態で取得

14000

12000

8000 6000

4000

2000

- ・DAQパフォーマンス評価
- ・フィルターの開発(TOFカット,飛跡検出等):リプレーヤーを使用しての評価



Beam TOF測定データのヒストグラム



FEEとNestDAQへの実装とTo do(*)

• FEE: AMANEQ & MIKUMARI system

- ・Time-Over-Threshold(TOT)測定レンジ: 4000 ns
- ・ 全発振対策のためのThrottling機能の実装
- ・ MIKUMARI FanOutの実装
- * Trigger emulation modeの実装 ⇒ テスト未実施
 - Trigger信号を入力 + 2 μsecのbufferを利用
- *SiTCP 10Gのバグ(?)の発見 ⇒ 調査中
- NestDAQ
 - ・20台のstreaming TDCの読み出しを安定的に遂行
 - Data flow: ~180 MB/s (~1.4 Gbps) (5.2秒サイクルの平均)
 - ⇒ビーム取り出し時: ~240 MB/s (~1.9 Gbps) (ほぼ HDD の書き込みの最大速度)
 - Filterの実装: Look up table (LUT)による自由度の高い組み合わせ
 - ・Data quality monitor (DQM)ポートからのオンラインディスプレイの実装 *達成できなかった事
 - ⇒TOF/ヒットパターンカットなど高度なfilterの実装, SlowDashの導入,
 - スケーラー情報の取得(TDCと独立した情報として), UIの改良
 - 今後ソフトウェアパッケージのアップデートとインストールを進める

トリガーDAQとの差異 (ユーザー的目線)

・ノイズの影響

- ・大きくenhanceされて見えた
 - *トリガーでは勝手にフィルターされている
 - DCノイズ: 1~10 kHz/ch (ToTフィルターが必須)
- Streaming DAQだと全データを取ることになる
 - データ転送を圧迫する
 - ・ ノイズではない正しい信号(dark currentなど)も全部取得

• 発振対策

- Throttling機能は必須
 - ・ GNA-200(32 ch ver.)のクロストーク事象
- ・どうデータが処理されたかの把握 (efficiencyの評価)
 - ・ HBF(時刻)が必ずあれば原理的に分かるが評価は必要
- ・Event buildの必要性 (解析方法の選定)
 - *1 HBF(525 µsec.) ⇒ 1 eventとして解析
 - ・ データ内容(同期)がパッと見で分からない
 - ・ ヒットパターンが見えない (ノイズがenhanceされる)
 - ・リアルタイムのデータヒストグラム確認
 - ・高度なフィルタリング



Summary and to do

- ・2023年6月ビームタイム: E50テストベンチのスタート
 - ・実際のハドロンビーム + E50検出器を使用してのStreaming DAQテスト
 - ⇒ 実際のビーム環境と検出器セットアップで実践的なテストが行えた
 - ・E50検出器の評価用データの取得
- To do
 - ・ Streaming DAQの性能評価
 - ハードウェアとソフトウェアアップデートへのフィードバック
 - E50検出器の評価
 - ・ 各種検出器の検出効率,時間/位置分解能等の評価
 - ・Streaming DAQや読み出し回路のアップデート
 - NestDAQのソフトウェアアップデート
 - ドリフトチェンバーへのASAGIASDカードの導入
 - ・シンチレーションファイバー検出器へのCIRASAMEの導入
- ・次回ビームタイム ⇒ スケジュールは未定 (年度末/来年度初め以降?)
 - ・本格的な評価試験
 - ・物理データの取得 (K⁻ビーム反応: $\Lambda \rightarrow p \pi^-, K_s \rightarrow \pi^+ \pi^-, K^- \rightarrow \pi^- \pi^- \pi^+ \alpha \mathcal{E}$)
 - ・ (SPADI-Aでの共用: テストベンチを利用しての検出器/FEE/DAQ/Softwareの評価)